

今週（1月25日から1月29日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、前週に引き続き取り手の資金調達意欲が強く、無担保コールO/N加重平均レートは高止まりとなった。基準比率が低下した影響からか、大手行のレートは相対的に低めとなっているが、地銀業態の積極的な資金調達姿勢は変わらない状況となっている。

週初の25日は、3日積み要因が剥落したものの、地銀業態中心に資金調達意欲が強く、レートは横ばい圏での取引で始まった。その後も、都銀業態のビッドは▲0.050%程度となっている一方で、地銀業態の積極的な調達姿勢は変わらず、日々レートは高止まりとなった。週末29日は、月末で資金調達を控える取り手が見られたものの、週末3日積みの要因から、ビッドサイドが全体的に強含み、レートは高止まりとなった。ターム物に関しては、地銀業態の資金調達ニーズが強いもののオファーが少なく、ショートターム物で▲0.010%程度の出合いが散発的に見られている。日銀当座預金残高は、25日の週初こそ480兆円台半ばで推移したものの、27日スタートの新型コロナオペアが大幅に増加したため、週半ばからは490兆円台半ばでの推移となった。

26日には新型コロナ対応金融支援オペアが6M物でオファーされ、118,184億円の貸付が行われた（期落ちは68,806億円）。同オペアの残高は27日時点で565,628億円となる見込み。

●レポ市場

今週のGC T/N物は、概ね▲0.105～▲0.070%程度のレンジとなった。一時的に低下する場面もみられたものの、基本的には▲0.08%前後での出合いが続いた。

SC個別銘柄では2Y410～420、5Y136～146、10Y345～361、20Y167～175、30Y59～69、40Y10～13などのカレント近辺の銘柄にビッドが多くみられた。

●短国市場

今週の短国市場は、先週の3回の入札を無難に通過したことで、やや閑散なマーケットとなった。3M物は概ね▲0.090%近辺出合いと小甘く推移していたものの、29日の新発債(969回)はセカンダリーマーケットにおいてやや強含みの出合いが見られた。一方で、6M・1Y物は週を通して動意に乏しく、横ばい圏で推移した。

26日に実施された短国買入オペアは、前回から12,500億円増額の20,000億円でオファーされ、平均落札利回較差+0.003%、按分落札利回較差+0.001%と、やや弱めな結果となった。

29日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.090%での出合いが見られる中、平均落札利回▲0.0919%、按分落札利回▲0.0875%と、無難な結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは▲0.110～▲0.105%出合いと、強含みで推移した。

●CP市場

今週のCP市場は、応当が月末・月初にあたる週となり、陸運・鉄鋼・食料品等幅広い業態から大口の発行が実施された。その一方で、月末に電機業態等の大口の償還がロールされなかったこともあり、週間償還総額1兆4,200億円程度に対して、発行総額は1兆3,600億円程度と、若干の償還超となった。市場残高は25兆円弱から25兆円台半ばでの推移となっており、先週から大きな変動は見られていない。発行レートは、新型コロナ対応オペアの担保需要と思われる買い需要が底堅く、発行規模の大きい案件では0%近辺で決着するケースも見られたものの、引き続き、殆どの案件でタームを問わずマイナス圏での決着が中心となった。

26日にはCP等買入オペアが事前予定通り6,000億円でオファーされた。按分落札レート▲0.034%、平均落札レート▲0.028%と前回比（按分▲0.030%、▲0.026%）でいずれもやや低下する結果となった。また、今回のCP等買入オペアは応札の下限レートが▲0.08%と、前回から▲0.01%引き上げられた。発行市場やオペア結果に対して、下限レートの引き上げの影響は見られなかった。

●短期金融市場関連指標

|          | 日経平均 (円)  | 新発10年物<br>国債利回り (%) | 為替<br>(ドル/円中心相場) | 無担保コールO/N<br>(加重平均・%) | 東京レポレート(翌日物・<br>T+1スタート・%) | 日銀当座預金残高<br>(億円) |
|----------|-----------|---------------------|------------------|-----------------------|----------------------------|------------------|
| 1/25 (月) | 28,822.29 | 0.035               | 103.82           | △ 0.017               | △ 0.079                    | 4,857,200        |
| 1/26 (火) | 28,546.18 | 0.030               | 103.75           | △ 0.016               | △ 0.085                    | 4,874,100        |
| 1/27 (水) | 28,635.21 | 0.035               | 103.68           | △ 0.017               | △ 0.084                    | 4,941,900        |
| 1/28 (木) | 28,197.42 | 0.035               | 104.28           | △ 0.016               | △ 0.096                    | 4,947,800        |
| 1/29 (金) | 27,663.39 | 0.050               | 104.48           | △ 0.012               | △ 0.082                    | 4,959,000        |

## 来週（2月1日から2月5日）の短期金融市場動向

### ●経済カレンダー

|         | 国内主要経済指標   | 国債等入札予定                     |                             |  | 海外主要経済指標                              |
|---------|--|-----------------------------|-----------------------------|--|---------------------------------------|
| 2/1 (月) |  |                             |                             |  | 12月の米建設支出<br>1月のISM 製造業景況指数           |
| 2/2 (火) | 財政資金対民間収支前月実績/当月見込み(財務省 15:00)<br>1月のマネタリーベース(日銀 8:50)                           | 10Y<br>26,000億円<br>2/3発行    |                             |  | 10-12月期のユーロ圏GDP1次速報                   |
| 2/3 (水) | 2月の日銀当座預金増減要因見込み(日銀 8:50)  | 交付税借入<br>10,000億円<br>2/12借入 |                             |  | 1月のISM 非製造業景況指数<br>1月のユーロ圏消費者物価指数速報値  |
| 2/4 (木) |  | 30Y<br>9,000億円<br>2/5発行     |                             |  | 12月の米製造業新規受注・出荷・在庫<br>英中銀MPC結果発表      |
| 2/5 (金) | 12月の全世帯家計調査(総務省 8:30)<br>1月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50)<br>12月の景気動向指数速報(内閣府 14:00) | TB3M<br>67,000億円<br>2/8発行   | 交付税借入<br>10,500億円<br>2/18借入 |  | 12月の米貿易収支<br>12月の米消費者信用残高<br>1月の米雇用統計 |

### ●資金需給予想

| 単位：億円   | 銀行券要因   | 財政等要因     | 資金過不足     | オペ種類                 | 期日分 | 新規実行分 | オペ合計  | 実質過不足     | 需給要因  |
|---------|---------|-----------|-----------|----------------------|-----|-------|-------|-----------|---|
| 2/1 (月) | 600     | ▲ 23,400  | ▲ 22,800  | 国債買入<br>CP買入<br>国債補完 |     | 8,900 | 8,900 | ▲ 13,900  | TB3M発行▲67000償還74400<br>2Y発行▲30000償還5100                 |
| 2/2 (火) | 1,000   | ▲ 8,000   | ▲ 7,000   |                      |     |       | 0     | ▲ 7,000   | 税・年金保険料揚げの前倒し分  |
| 2/3 (水) | 0       | ▲ 90,000  | ▲ 90,000  |                      |     |       | 0     | ▲ 90,000  | 年金保険料揚げ<br>労働保険料揚げ<br>法人税・消費税揚げ<br>社会保障費<br>10Y発行▲26000 |
| 2/4 (木) | 0       | 1,000     | 1,000     |                      |     |       | 0     | 1,000     |   |
| 2/5 (金) | ▲ 1,000 | ▲ 12,000  | ▲ 13,000  |                      |     |       | 0     | ▲ 13,000  | 30Y発行▲9000  |
| 週間合計    | 600     | ▲ 132,400 | ▲ 131,800 | —                    | 0   | 8,900 | 8,900 | ▲ 122,900 |   |

2/1は日銀予想、2/2以降は当社予想

### ●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、積み期間後半に入り、引き続き地銀業態中心に資金調達意欲が強い状態が見込まれることから、レートは高止まりを予想する。レポ市場は、積み期間の後半に入り、資金需給の動向が注目される。短国市場は、5日に3M物の入札が実施予定となっている。需給やレート水準を含め、市場動向が注目される。また、2日に実施が予想される短国買入オペのオファー額にも注目したい。CP市場は、事業法人の動向や市場残高の推移が注目される。

主要なイベントは、海外では2日に10-12月期のユーロ圏GDP1次速報、3日に1月のユーロ圏CPI速報値、4日に英中銀MPC結果発表、5日に1月の米雇用統計が予定されている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。

◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入